

白道会大会

真宗カウンセリング講習会も開催

去る八月二十三日、二十五日、西光義敬先生（元龍谷大学教授・真宗カウンセリング研究会会長）をお招きして白道会大会が開催されました。



西光先生

白道会は、会員約五百名の会で、忙しい男性も年に一度はお聴聞しようとして、澤原俊雄さんを発起人代表としてはじまった歴史ある法座です。会費を募って高名な先生をお招きしますので、普段なかなか聞けないお話を聞くことができます。

みなさんは「真宗はどんな教えですか」と聞かれたらどう答えますか？意外に難しいですね。教団

全体が「名ばかりの門徒・形ばかりの僧侶」（前ご門主のお言葉）となり形骸化つつある中で、先生は、私たちが大切にしてきた（教えの）聞き方は本当にこれで良いのか、問い直す必要がある、ただ「聞く」のは何十年聞いてもダメ。「聞きひらく」（蓮如さまの言葉）ことが大切。そして、「後生の一大事を心にかけて聞く」ということについてじっくりとお話を聞かせて下さいました。

また、二十四日昼席は、特別にカウンセリング講習会を設け、約七十名の参加がありました。現代は複雑多様化し、心に悩みを持つ人は増加の一途をたっています。そのような人たち、私たちはいかに応えてゆくべきでしょうか。先生は、「助言」はほとんど役

に立たない。激励やなくさめは逆効果になることがある。質問に答えるのではなく相手の気持ちを聞く心の中を吐き出すプロセスが心が良くなるプロセスであり、気持ちをしっかりと理解してくれる人間関係が大切など、知っておくべき大切

なポイントを教えてくださいました。この講習会は、実践練習を含めて年に数度継続して行う予定です。

また、二十四日夜席は、参詣者が車座になって「話し合い法座」が行われました。西教寺では御示談（講師と参詣者の質疑応答）や対談（講師と若院の対話を参詣者が聴聞）などは行

われたことがあります、皆が膝を交えての座談会は初めて。参詣者はとまどいながらも熱い思いを語り合いました。

（註）真宗が栄えている時の法座は、説教（講師から門徒方向へ仏意伝達）・領解出言（門徒方向からの信仰告白）・談合・座談（双方方向による相互の深めあい）が、それぞれに関連しあいながら展開してきたことが、現在注目されています。

かみしめたい三話

久保田 利数

念仏繩

『新著簡集』より引用
摂州（大阪府）池田に近き某村に新右衛門あり。その父善齋は年老いたので別棟に隠居したが、後世の道（信仰のこと）には無関心で、毎日本家にやって来て、世渡り（生活）のことばかり口に出すので、新右

衛門はつねつね心配していた。ある時、父に話す。京都黒谷には念仏繩というて、藁一束を念仏しながら一心に細繩にな（の）うたなら、銭一貫文くださるそう。これは隠居する人にはよい仕事であるよ。それでは私も今日よりな（あ）んでみましよう

言うて繩をみて差し出した。すぐに右代金八百文いだ。出た来た繩も上手だったし、その上念仏しながらあんだとは、更によしと云うて八百文も下さった。というので、善齋手を打ち、さてもさても立派な心がけだよとおほめにあつた。それから余心なくひたすら念仏しながら仕事した。以後念仏の貴き味を知り、ついに仏教の信者になつたそうだ。これは新